

海外安全対策情報（ポルトガル・2025年7月～9月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

（1）治安情勢等

ア 2024年の犯罪発生状況

2024年の一般犯罪認知件数は、354,878件で、前年比4.6%（17,117件）減少しましたが、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年と比較すると5.7%増加しました。

凶悪重大犯罪の認知件数は14,385件で、犯罪全体に占める割合は3.9%です。前年比では2.6%増加しましたが、2019年と比較すると0.1%減少しました。

2024年中の凶悪犯罪の中では、特に路上強盗及びひったくりが最も多くを占めています。

増加傾向が目立った犯罪としては、ひったくりが前年比8.7%増（174件）、強姦が前年比9.9%増（49件）、住居における強盗が10.9%増（49件）、商業施設等における強盗が21.7%増（80件）、乗物盗が前年比106.3%増（134件）、銀行等における強盗が128.6%増（18件）となっています。

イ 大規模森林火災

政府は、8月2日から19日まで森林火災の深刻化を受けて国内全土における「警戒事態」の宣言をしました。火災の影響は、北部及び中部を中心とする28の自治体に及び、8月31日時点で、国内において約25.4万ヘクタール（国土の約3%）が焼失し計7,046件の火災を記録しました。被害は、森林だけでなく、住宅、農地、工場、商業施設、公共設備に及んでいます。共和国警備庁（GNR）によると、火災の原因の30%が焼き畑などの際の火の不始末、24%が放火によるものとされます。

ウ ケーブルカー「グロリア線」脱線事故

9月3日18時頃、レスタウラドーレス広場とバイホ・アルト地区を結ぶケーブルカーの上車両が急勾配を急降下し、レールを脱線して建物に衝突する事故が発生し、乗客等16名が死亡、20数名が負傷しました。司法警察庁は、被害者の国籍について、ポルトガル、韓国、スイス、英国、カナダ、ウクライナ、米国、フランスと発表しました。事故原因については暫定報告書によると、牽引用ケーブルの破断に加えてそもそも認証外の部品の使用や車両点検体制の不備等が指摘されています。

エ その他犯罪発生状況

（ア）侵入盗の手口について

9月、治安警察庁犯罪捜査部は、東欧諸国やバルカン半島に拠点を置くグループが国内全域で侵入盗を繰り返していると注意喚起しました。グループの手口は、月曜日に不在かどうかを確認するために住宅の玄関ドアの蝶番などの付近に、小さく透明なクリップを挟み、金曜日にクリップが落下していない出入りのない住宅を確認後、週末の出入りが少ない12時から16時を中心に住居に侵入し金品を盗むとのことでした。

（イ）すり被害について

報道によると、治安警察庁が2025年1月から6月に逮捕したすり窃盗犯は80名で、188名の被疑者が特定されているということです。統計期間中のすり被害は3,027件で、傾向として、移動型組織犯罪グループによる犯行で、犯人の多くが犯罪を目的にポルトガルに入国する外国人です。逮捕されても、ほとんどが勾留処分とはならないため、国外に逃亡してしまう事案が多いのが現状です。すりの認知件数は、2023年が270件、2024年が3,051件です。

(2) 邦人被害

2025年7月から9月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害件数は4件（すり被害）でした。

注意していただきたいエリアとしては、リスボン市内のコメルシオ広場、サン・ジョルジュ城、バイホ・アルト地区、ベレン地区及びポルト市など人通りの多い観光地です。バックパックやショルダーバッグのファスナーを開けられ貴重品を抜き取られたり、カフェのカウンターに置いた鞆を盗まれたりしています。人の多い場所では、鞆を正面で持つなど盗難対策をしましょう。

路上や観光スポットはもちろん、レストランやホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。食事の際、路上演奏を聴く際、写真を撮影する際、支払をする際などには、手荷物を常に視界に入れて、被害に遭わないよう気をつけて下さい。

ア 7月 すり3件

イ 8月 すり1件

ウ 9月 すり0件

※ ご旅行に際しては、在ポルトガル大使館作成「安全の手引き」をご覧ください、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」への登録もお願いします。

2 報道された犯罪

(1) 殺人

ア 7月30日、ロシオ駅近くのパティオ・サレマにおいて、頭部を切断された外国人男性の遺体が発見され、翌31日、被疑者（外国人男性）が切断した頭部を持ってサン・ジョゼ病院に出頭し、警察官に逮捕されました。

イ 8月19日、シネス市内にある市営市場でカフェの男性経営者が知人の男に猟銃で撃たれて死亡、現場から逃走した男は約2時間後に警察官に逮捕されました。

(2) 強盗

ア 7月7日、北部地域において、ドローンを使用して高齢者の住む住居を特定して押し入り、約100万ユーロ超の金銭、財物を盗むなどした武装強盗グループを司法警察庁が逮捕しました。

イ 9月3日午前8時頃、オディヴェラス市内にあるガソリンスタンドに併設されたコンビニ店内において、外国人男性（不法滞在者）が女

性客にハサミを首に突き付けて携帯電話を奪おうとしていたところ、居合わせた警察官に逮捕されました。

(3) すり

ア 8月13日午前11時頃、リスボン市レスタウラドーレス広場において、すり対策専従班の警察官が観光客の財布を盗んだ外国籍の女性4人組を逮捕しました。2名が被害者の注意を引き、1名が鞆から財布を抜き取って別の1名に渡して、全員で地下鉄レスタウラドーレス駅に逃げるといった手口を行っていたとのこと。

イ 9月30日、リスボン市内を運行する路面電車15番の車両内で、観光客の鞆から携帯電話を盗んだとして57歳と58歳の男性2名が逮捕されました。6件以上の窃盗を繰り返していたとされています。

(4) その他

ア 7月17日、アルブフェイラ市オウラ地区において、イギリス人観光客が若者5人のグループに蹴られるなど暴行を受けました。

イ 8月24日、リスボン市ルミアール地区のマンションにおいて、20代外国人女性2名（国際的窃盗団の一員と判明）が、鍵を壊して室内に侵入し貴金属を盗み逃走したところを警察官に逮捕されました。

3 テロ・爆弾事件発生状況
ありません。

4 誘拐事件発生状況
日本人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

5 対日感情
良好です。

6 日本企業の安全に関する諸問題
外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。